

地域保健

1
2022

●新春座談会

コロナ禍における統括保健師の役割

—不安と混迷の時代に

●特集

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進

—コロナ禍でいかに進めるか





イラストレーター・スズキトモコ

新しい1年の始まりは軽やかに、真っ白な世界に飛び込むように滑り出していきたいです。

<http://www.tomo-com.com>

【新春座談会】

6

コロナ禍における統括保健師の役割 —不安と混迷の時代に

(出席者) 春山早苗さん(自治医科大学看護学部) = 司会 福原 円さん(小山市保健福祉部)
河西あかねさん(東京都多摩府中保健所) 鈴木秀洋さん(日本大学危機管理学部)
山崎初美さん(神戸市健康局)

【特集】

26

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進 —コロナ禍でいかに進めるか

- 28 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進について
宇野 薫(厚生労働省保険局高齢者医療課)
- 32 コロナ禍における高齢者の機能低下とその予防
—保健事業と介護予防の一体的実施を中心に 津下一代(女子栄養大学)
- 36 《事例 北海道恵庭市》 垣根を超えた相互理解から生まれる協力体制
桑原あゆみ、福井美奈子、中野 杏、菅原宏輔(恵庭市保健福祉部)
- 42 《事例 大阪府藤井寺市》生活習慣病予防を重視、コロナ禍のポピュレーション
アプローチに工夫 濱口紀子(藤井寺市健康福祉部)
- 46 《事例 鹿児島県日置市》多職種連携・人材育成を力に
松村千代実(日置市市民福祉部)
- 51 《事例 兵庫県淡路市》「まちぐるみ健診」会場で健診・相談・指導を一体的に
水田明子(淡路市健康福祉部)

- 2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 田中千尋さん(宇部市こども・若者応援課)
- 70 Close Up ▶ 心を守るための、心の取り扱い説明書 三宅 琢(株式会社 Studio Gift Hands、産業医)
- 74 研究報告 ▶ コロナ禍の行政保健師活動—文献検討で明らかになった悩みと課題、対策と成果
氏原将奈(淑徳大学看護栄養学部看護学科)、川島菜々子(淑徳大学看護栄養学部看護学科)、
井出浩一(埼玉県保健医療部健康長寿課)、佐藤太地(日本赤十字看護大学大学院看護学研究科)
- 84 ピープル ▶ 萩原美由紀さん(アール・ド・ヴィーヴル)
- 96 情報BOX
- 102 次号予告/奥付

連載

- 56 東京保健師ものがたり《第5回》/和泉慶子
- 68 オンライン市役所だより《第5回》
/保健師とつながろう課
- 78 ESSAY 国際保健《第47回》/松田正己
- 80 短期連載 新型コロナ対策における地元大学教員の
保健所支援 《第4回 最終回》/瀧美綾子ほか
- 88 保健師のための閑話ケア《第98回》/藤本裕明
- 92 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第83回》/中臣昌広



たなか・ちひろ

田中千尋さん

●宇部市こども・若者応援課

どの世代からも健康のことなら
私に聞いてもらえるような
信頼してもらええる保健師になりたい



学生時代に参加した公衆衛生看護学会が開催された宇部市渡辺翁記念会館の前で

コロナ禍における

統括保健師

の役割

—不安と混迷の時代に

新型コロナウイルス感染症の拡大は依然として予断を許さない状況だ。コロナ以外の感染症が広がるリスクも指摘されるなど、一昨年からは非常時が常態化する時代になってしまった。

保健師は公衆衛生行政の最前線でコロナ対応などに当たったが、過酷な勤務状況が続いた結果、体調を崩したりメンタル不調に陥ったりすることも少なくなかった。一方、長びく自粛生活などの影響で、住民の健康への悪影響も懸念され、保健師はこれらの課題への対応も求められている。

非常時と日常が混在する中で、自治体保健師の取りまとめ役である統括保健師が果たすべき役割は何か。新春座談会では、都道府県（保健所）、保健所設置市、一般市の各統括保健師と危機管理の専門家が集まり、混迷の時代における統括保健師の役割について考える。



◆自治医科大学看護学部

春山早苗さん

司会



◆神戸市健康局

山崎初美さん



◆東京都多摩府中保健所

河西あかねさん



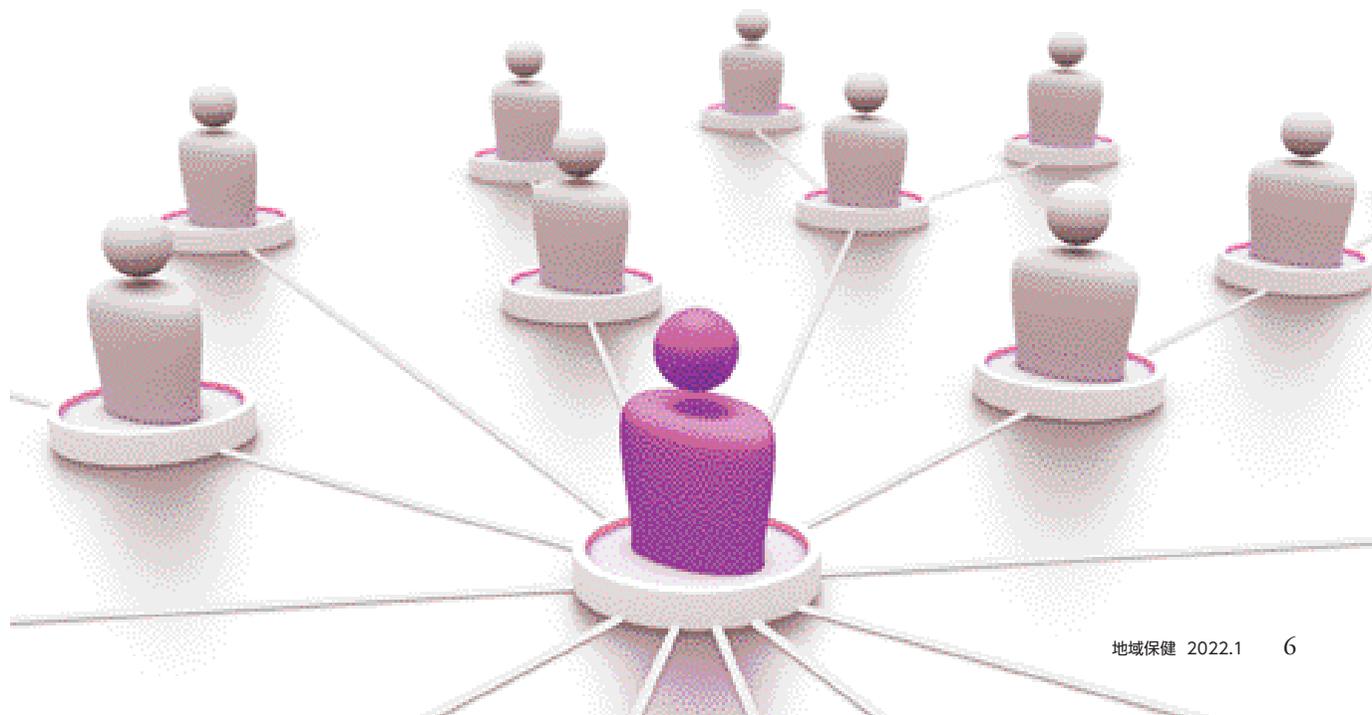
◆小山市保健福祉部

福原 円さん



◆日本大学危機管理学部

鈴木秀洋さん



「高齢者の保健事業と

介護予防の一体的実施」の推進

コロナ禍でいかに進めるか

「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」がスタートしたのは、日本列島がコロナ禍の第一波に襲われた令和2年4月。いきなりソーシャルディスタンスを求められるようになり、住民主体の「通いの場」など対面交流を中心に事業の実施が難しくなるところもあった。一方、長引く自粛生活は高齢者の心身の機能を低下させるため、こうしたときこそ高齢者の保健事業・介護予防の取り組みが強く求められる。特集では、コロナ禍における高齢者の健康づくりを保健事業と介護予防の一体的実施の立場から整理するとともに、自治体の好事例を紹介する。

P28 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の推進について

◎宇野 薫（厚生労働省保険局高齢者医療課）

P32 コロナ禍における高齢者の機能低下とその予防
— 保健事業と介護予防の一体的実施を中心に

◎津下一代（女子栄養大学）

P36 【事例 北海道恵庭市】
垣根を超えた相互理解から生まれる協力体制

◎桑原あゆみ、福井美奈子、中野 杏、菅原宏輔（恵庭市保健福祉部）

P42 【事例 大阪府藤井寺市】
生活習慣病予防を重視、コロナ禍のポピュレーションアプローチに工夫

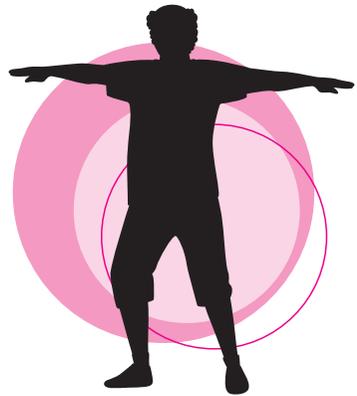
◎濱口紀子（藤井寺市健康福祉部）

P46 【事例 鹿児島県日置市】
多職種連携・人材育成を力に

◎松村千代実（日置市市民福祉部）

P51 【事例 兵庫県淡路市】
「まちぐるみ健診」会場で健診・相談・指導を一体的に

◎水田明子（淡路市健康福祉部）



萩原美由紀

さん

●NPO法人アール・ド・ヴィーヴル 理事長

障害があってもなくても、誰もが自分らしく
生きがいを感じ、豊かに生きられる社会に

「アール・ド・ヴィーヴル」とは、フランスでは「自分らしく生きる」こととして使われる言葉。神奈川県小田原市にあるアール・ド・ヴィーヴルのアトリエでは、障害のある人が自分のできることや得意なことを生かしていきいきと活動している。障害がある人の「やってみたい」を実現したい。言葉にならない思いを表現する手段を手にしてほしい。そんな思いが、萩原さんを動かしている。

●取材文……太田美由紀(ライター)

「障害」という言葉さえ
縁のない生活だった

小田原市に、笑顔と笑い声のあふれるアトリエがある。日曜日はワークショップが行われており、10時ごろになると障害のある幼児から大人まで、参加者が少しずつ集まってくる。

取材日はアートディレクターの中津川浩章さんのアートワークショップの日。自分の好きな場所に座り、好きなサイズの紙、

筆やクレヨン、鉛筆など、画材を自由に選び、描きたいものを自由に描く。

絵が描き上がると、その人が作品に表現した思いを中津川さんが言葉にして確認し、参加しているみんなに伝える。その人だけの大切な表現をみんなで共有し、それぞれがまた次の作品に向かう。

笑顔や笑い声があふれる時間だ。

平日は、萩原美由紀さんが施設長を務める障害福祉サービス事業所「アール・ド・ヴィーヴル」となり、利用者は絵画以外に

もクラフト、織物、農作業など、さまざまな活動を通して自分のやりたいことを見つけ、自分のペースで取り組んでいる。

前身は、ある保健師が1990年に立ち上げた、ダウン症児の家族が集うための「ひよこの会」だった。萩原さんはその6年後、第一子としてダウン症児を出産する。

「息子がダウン症だと知ったのは生後2か月の頃です。1か月の頃に検査をして、結果が出るまでに1か月かかりました。その期間が一番苦しかった。そのとき、お世話

座談会

精神障害にも対応した 地域包括ケアシステムと市町村保健師の役割

<出席者> 齋藤綾子さん (厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課) =司会
 藤井千代さん (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)
 森永裕美子さん (岡山県立大学)
 二飯田真由美さん (川口市保健所)
 川上美都江さん (米子市福祉保健部)

鼎談

母子保健とコロナ禍

<出席者> 中板育美さん (武蔵野大学) =司会
 小川智詠子さん (新宿区四谷保健センター)
 松下倫子さん (大東市保健医療部)

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! 米満 葵さん (鹿児島市保健部保健支援課)

ピープル 中村舞斗さん (NPO 法人虐待どっとネット 代表理事)

活動報告 新型コロナ感染症に対する業務マネジメントを通しての考察
 弘中千加 (平塚保健福祉事務所秦野センター)

寄稿 令和元年度社会保障費用統計-概要と解説- (仮題)
 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障費用統計プロジェクト

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
 令和4年1月号

令和4年1月1日発行/隔月(奇数月)1回1日発行
 発行人 菅 国典
 制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
 株式会社 東京法規出版
 振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】 TEL 03-5977-0300
 FAX 03-5977-0385
 ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】 TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン=新海妙子
 ◎印刷・製本=(株)上野印刷所
 ◎編集長=須賀健次
 ◎編集員=松岡康子

本誌に掲載された著作物の
 複写・転載等の許諾権は、
 株式会社東京法規出版が保
 有しています。

バックナンバー紹介

2020年9月号

特集「コロナ時代の災害支援」

近年多発する地震、豪雨などの自然災害時におけるコロナ対策のあり方についてまとめる。

座談会「コロナ時代の保健活動」

—ウイルスと共存する社会の健康づくり

ソーシャルディスタンスを保つなど、新しい生活様式を定着させる中で、住民の健康を守る保健師の活動を継続する方法などについて話し合う。

2020年11月号

特集「コロナで進化・加速するオンライン&デジタル保健」

コロナ時代にあらゆる分野でオンライン化、デジタル化が推進されつつある。地域保健領域におけるこれらの潮流を概観する。

2021年1月号

特集1「健康危機管理能力を高める」

—新型コロナウイルス対策を中心に

国の健康危機管理の視点から日本版CDCや新型インフルエンザ特措法について解説し、地域の健康危機管理について座談会で語り合う。

特集2「コロナ禍とメンタルヘルス」

—コロナうつを中心に

コロナうつやコロナ不安、自殺者の増加など、コロナ禍に端を発するメンタルヘルスの問題に対して打開策を探る。

2021年3月号

特集「児童相談所と地域の関わり」

—これからの社会的養育推進に生かす保健師の視点

児童福祉法等の改正を踏まえ、国は「新しい社会的養育ビジョン」を打ち出している。社会的養育推進における保健師の役割などについて、座談会で議論し、取り組み事例を掲載する。

2021年5月号

特集「保健師人材育成のいま、そしてこれから」

第1部ではコロナ前から進んでいる保健師の現任教育を整理、第2部では平時と健康危機時を見据えた人材育成について深掘りする。また、新人でいきなりコロナ禍を経験した保健師たちの座談会も掲載。

2021年7月号

特集「生きづらさを抱える女性たちの支援をどうするか」

—ウィズコロナ・ポストコロナの地域の課題

コロナで生じた地域への悪影響のうち、生きづらさを抱えている女性の問題にスポットを当て、保健師としてこの課題にどう向き合うべきかを考える。

2021年9月号

特集「貧困家庭の子どもへ必要な健康支援」

貧困家庭では健全な生活習慣を育むことが難しく、子どもの有病率は高いといわれるが、子どもへの支援は必須ではなく、自治体に任されている。この問題に保健師はどう向き合うか。

2021年11月号

特集「子どもの性と向き合う」

—包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて

包括的性教育やプレコンセプションケアの視点から、保健師が子どもの性とどのように向き合ったらよいかを考える。

座談会「保健活動におけるデータとエビデンス」

—EBPM、ICT、AIの時代に

EBPM、ICT、AIの巨大な潮流の中で保健活動はどのように変わっていくのか。保健師業務におけるデータやエビデンスの扱いについて語り合う。

お申し込みは

(株)東京法規出版 地域保健編集部 FAX: 03-5977-0385

※バックナンバーの価格
(2009年3月号まで) 837円(税込)+送料154円
(2009年4月号～2016年3月号まで) 942円(税込)+送料154円
(2016年5月号から) 1,507円(税込)+送料154円

『地域保健』購読のご案内

- 年6回、隔月〔奇数月〕1日発行
- B5判、総100頁(本文96頁、表紙4頁)
- 価格 1冊あたり 定価1,507円(本体1,370+税10%)、送料154円
年間購読 《公費前納および個人》8,137円(税込、送料弊社負担)
年間購読 《公費後納》9,042円(税込、送料弊社負担)
※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>

前版から**150%超え**のページ増 **5年ぶり**の大改訂でより充実した内容に

小児から成人まで 食物アレルギーの予防・診断・管理のための

食物アレルギー 診療ガイドライン 2021

購入者限定
電子書籍
付き

監修：海老澤 元宏 / 伊藤 浩明 / 藤澤 隆夫

作成：一般社団法人日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会

第1部 EBM / 第2部 総論 /
第3部 各論 / 第4部 社会生活支援

【主な改訂のポイント】

- ▶ システマティックレビューで抽出したエビデンスをもとに、今版から初めてクリニカルクエスチョン (CQ) を追加しました。
- ▶ 各論では、原因となり得る食物ごとに、より詳細な解説を加えました。
- ▶ 保護者から提出された「生活管理指導表」の対応方法や学校給食の対応レベルについて詳述しました。
- ▶ 疫学データを更新し、関連法規や災害時対策の解説を充実させるなど、地域の医療対策にも資する内容としました。

定価 5,940円
(本体5,400円+税10%)
ISBN 978-4-87794-208-3
B5判 本文283ページ(4色)



2021年
11/13
発売開始

詳しくは
協和企画
書籍販売
サイトへ



<https://bit.ly/3AKttmM>

本Webサイトからご購入の場合* 送料は当社が負担します。* 2022年1月末 申込分まで

【編集・制作・発売】

 株式会社協和企画
Know today, Power tomorrow INTAGE GROUP

〒170-8630 東京都豊島区東池袋三丁目1番3号ワールドインポートマートビル 8階
<https://www.kk-kyowa.co.jp>

虐待予防は母子保健から 指導ではなく支援



2022年2月中旬
発売予定

**善意はしばしば有害であり
熱意は非常に危険である
さらに正義はもっと危険**

雑誌『地域保健』2019年5月号から2年にわたる連載12回分を収録。発行にあたり、地域精神科医である著者の立場から母子保健に携わる保健師への期待を書き下ろしで大幅追加。保健師だけでなく、虐待予防に関わる方にも読んでほしい一冊。

著者：とよたまこころの診療所 鷺山拓男

A5判128頁 定価990円(税込み)

ISBN978-4-924763-56-2 C3047

CONTENTS

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 第1回 児童虐待を予防するための母子保健 | 第7回 「このままの私でやっていく」ことを支える保健師活動 |
| 第2回 家族機能不全と保健師活動 | 第8回 母子保健の虐待予防における援助関係形成に求められるもの |
| 第3回 虐待を予防する援助関係と保健師の訪問 | 第9回 新型コロナウイルス問題化での虐待予防「取り締まり」か「援助」か |
| 第4回 <事例紹介>国分寺市の母子保健の取り組み
虐待予防の3つの視点に基づく母子保健事業 | 第10回 子どもの虐待予防と母子・精神保健 |
| 第5回 虐待ハイリスクの親を支援するグループ | 第11回 子どもの虐待死亡を防ぐ保健師活動 |
| 第6回 虐待の世代間連鎖を予防する保健師活動 | 第12回 虐待予防の「いま」と「これから」 |
- あとがき／参考文献(133本 abc順)